



# 2025年度決算説明会 (2025年4月～2026年3月)

開催日:2026年5月29日

ジオスター株式会社

(東京都文京区小石川一丁目4番1号)



# 型を超えて、 未来を型どる

## 目次

### 2025年度決算

2025年度の事業環境	》	p.3
2025年度決算の概況	》	p.4
受注高・受注残の推移	》	p.5
連結財政状態・連結キャッシュフロー	》	p.6
連結主要経営指標	》	p.7
設備投資・減価償却の推移	》	p.8
株主還元	》	p.9

### 2026年度業績予想

2026年度業績予想	》	p.11
------------	---	------

### 中期経営計画(2027年3月期～2031年3月期)の概要

中期計画の骨子	》	p.13
戦略1 製品ポートフォリオの抜本的見直し	》	p.14
戦略2 将来に向けた成長戦略	》	p.15
戦略3 「稼ぐチカラ」の再構築	》	p.16
戦略4 財務戦略	》	p.17
戦略5 サステナビリティ経営の推進	》	p.19

### 参考資料

今後予定される主なプロジェクト	》	p.22
トピックス	》	p.24
主要製品	》	p.25



# 2025年度決算

# 2025年度の事業環境

## 全体概況

- 公共投資は国土強靱化を背景に、堅調に推移
- 今後の先行きについても、底堅く推移することが見込まれる
- 原材料価格・物流費・人件費等の上昇によるコストアップ

## セグメント分野

- 関西地区の合成セグメントの生産・売上増加
- 大型セグメント案件の掘進トラブルによる出荷遅れが続発

## 土木分野

- 道路関連プロジェクトの売上増加
- 予算不足に伴う工事発注の遅れによる受注の減少

# 2025年度決算の概況

- 事業環境への対応
  - 製品ポートフォリオの抜本的見直し(大型セグメント端境期を補う土木製品の拡販推進)
  - 社会ニーズ(国土強靱化・人手不足・環境配慮)に対応したプレキャスト製品の開発・提案による競争力強化
- セグメント製品のチャンピオンポジションの維持
- 舗装版等の差別化製品を中心としたRC土木の売上拡大
- コスト上昇に対する販売価格転嫁の推進

(単位:百万円)(百万円未満切捨て)

## 2025年度実績

	2024年度実績 A	2025年度実績 B	前期比 C=B-A	増減率 C/A
売上高	28,527	28,858	330	1.2%
営業利益	1,551	2,050	499	32.2%
経常利益	1,580	2,104	523	33.1%
親会社株主に帰属する当期純利益	835	1,852	1,016	121.7%
配当(円)	3.00	4.00	1.00	-
中期	8.00	9.00	1.00	-
年間	11.00	13.00	2.00	-

(単位:百万円)(百万円未満切捨て)

## 2025年度業績予想公表値

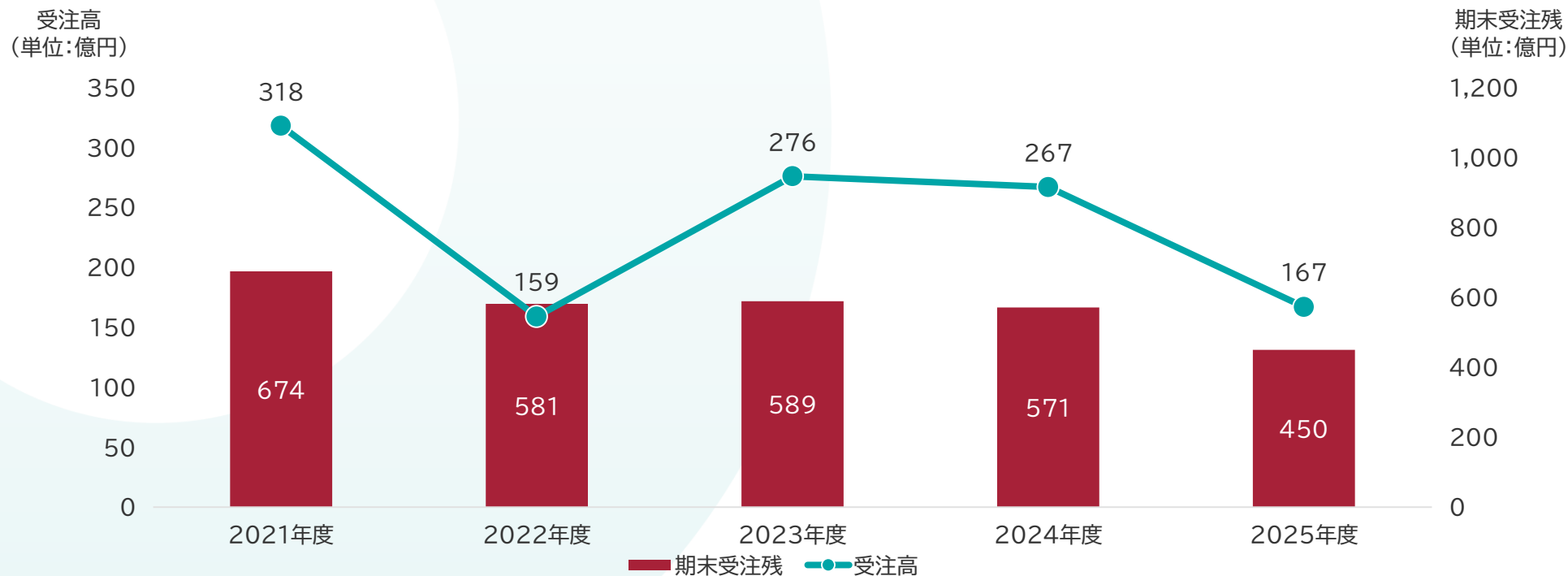
	2025年 5月15日	2025年 11月7日	2025年 11月28日	2026年 2月6日	2026年 3月27日
売上高	28,300	27,400	27,400	27,600	28,700
営業利益	970	1,120	1,300	1,540	1,960
経常利益	1,000	1,150	1,320	1,580	2,020
親会社株主に帰属する当期純利益	600	730	850	1,440	1,760
配当(円)	3.0	4.0	4.0	4.0	4.0
中期	3.0	3.0	4.5	6.0	8.0
年間	6.0	7.0	8.5	10.0	12.0

# 受注高・受注残の推移

- 大型セグメントの端境期に当たり、受注高・受注残高は減少(利益率の高い土木製品の比率増加)

	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
受注高	31,877	15,916	27,687	26,759	16,753
期末受注残	67,448	58,128	58,906	57,137	45,032

(単位:百万円)

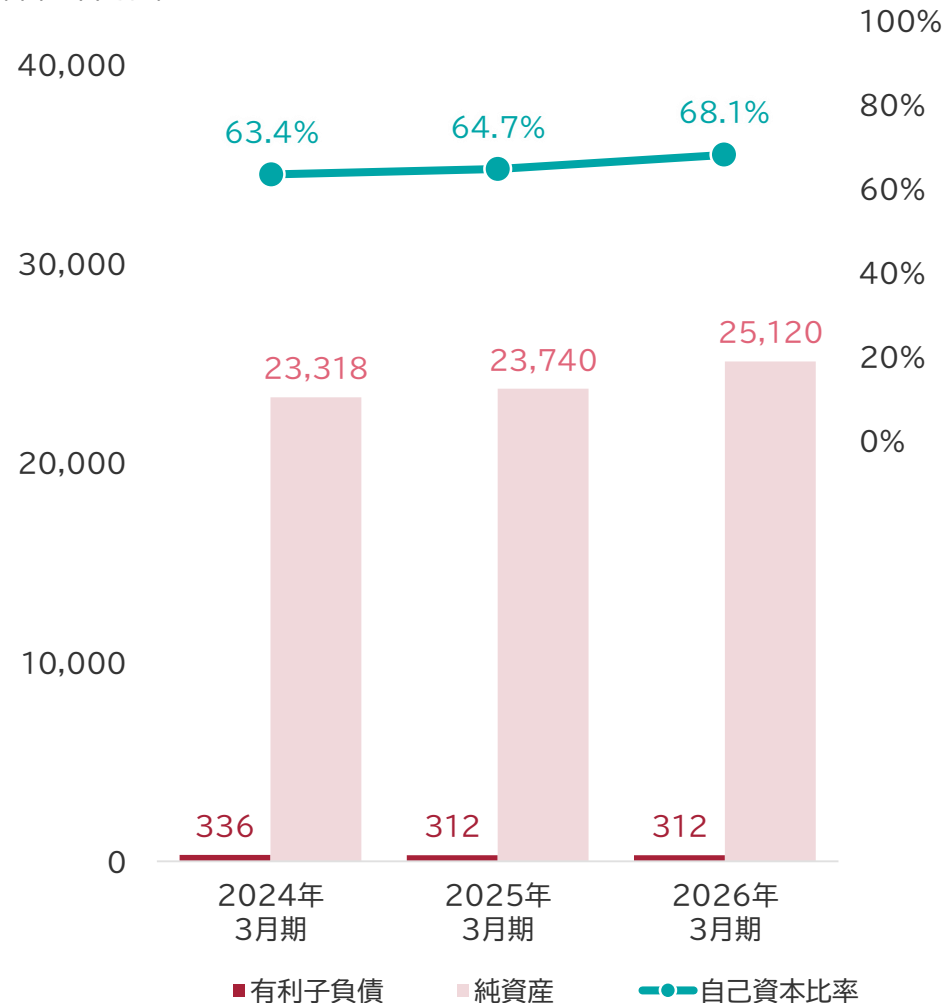


# 連結財政状態・連結キャッシュフロー

## 連結財政状態

	2024年3月期	2025年3月期	2026年3月期
総資産	36,766	36,719	36,885
負債合計	13,448	12,979	11,765
有利子負債	336	312	312
(短期借入金)	320	280	270
(長期借入金)	10	10	20
純資産	23,318	23,740	25,120
自己資本比率	63.4%	64.7%	68.1%

(単位:百万円) (単位:百万円)



## 連結キャッシュフロー

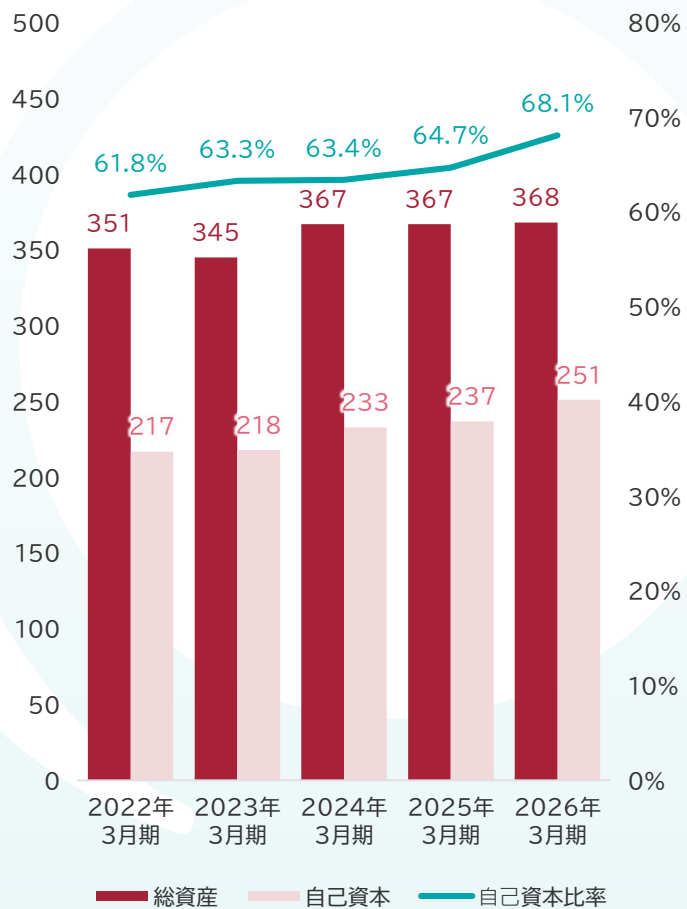
	2024年3月期	2025年3月期	2026年3月期
営業活動によるキャッシュ・フロー	△1,892	927	4,483
投資活動によるキャッシュ・フロー	△727	△1,326	△74
財務活動によるキャッシュ・フロー	△192	△484	△661
現金及び現金同等物に係る換算差額	△2,812	△882	3,746
現金及び現金同等物の期首残高	7,954	5,142	4,259
現金及び現金同等物の期末残高	5,142	4,259	8,005

(単位:百万円)

# 連結主要經營指標

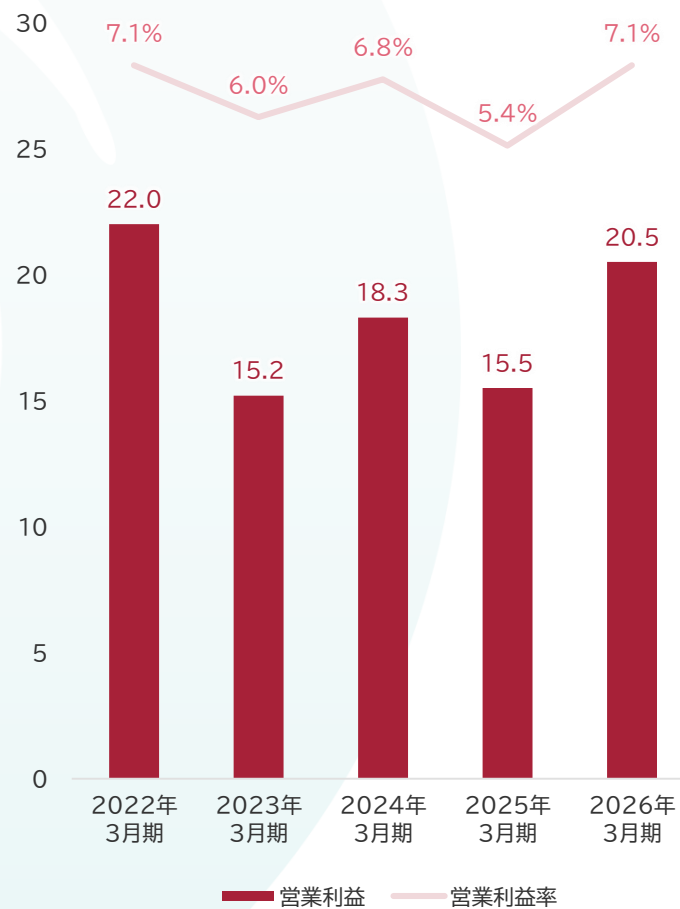
## 總資產・自己資本・自己資本比率

(單位: 億日元)

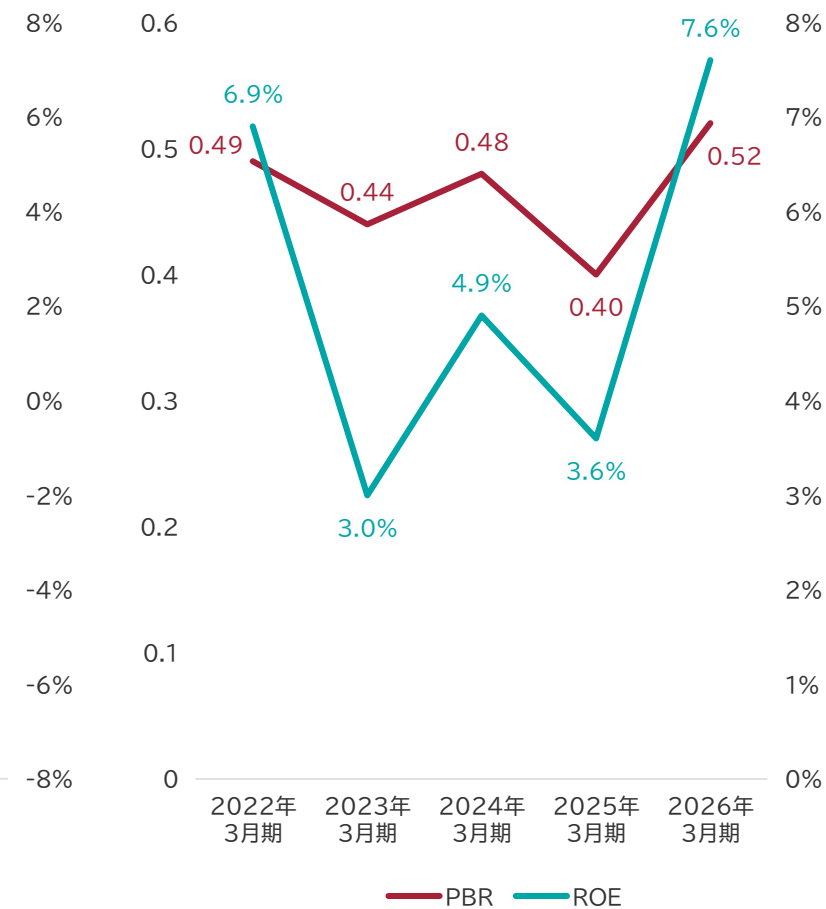


## 營業利益・營業利益率

(單位: 億日元)

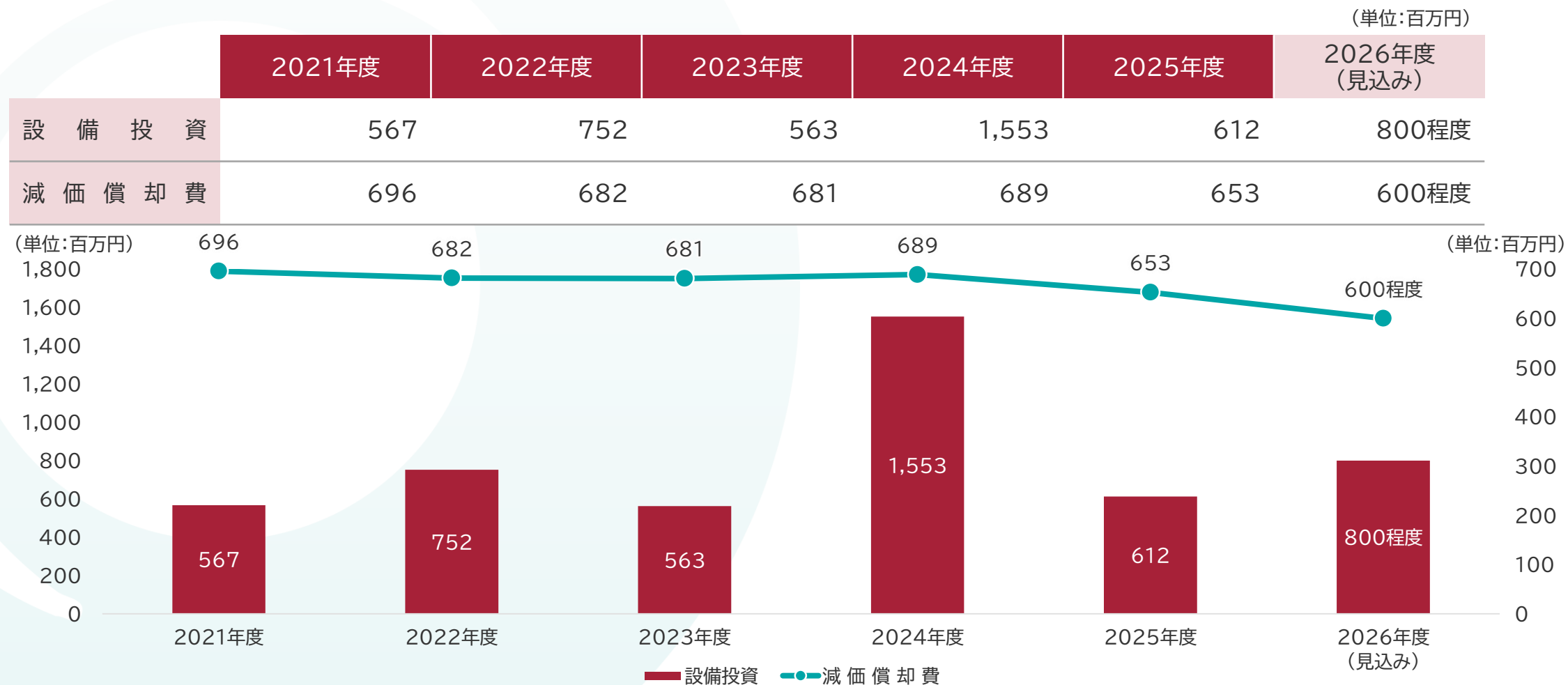


## PBR・ROE



# 設備投資・減価償却の推移

- 2025年度は、老朽設備の更新を主として6.1億円の設備投資を実施した。



# 株主還元

配当実績  
(2026年3月期) **13円**

配当予想  
(2027年3月期) **10円**

## 利益配分に関する基本方針

当社グループは適正な利潤の確保に努め、健全な発展と持続性を目指し、収益状況に対応した適正な配当維持に努力することを基本方針といたします。また、株主の皆様に対する利益還元を経営の重要な課題の一つと位置付け、内部留保を確保しながら、継続的かつ安定的な配当の実施を図ります。

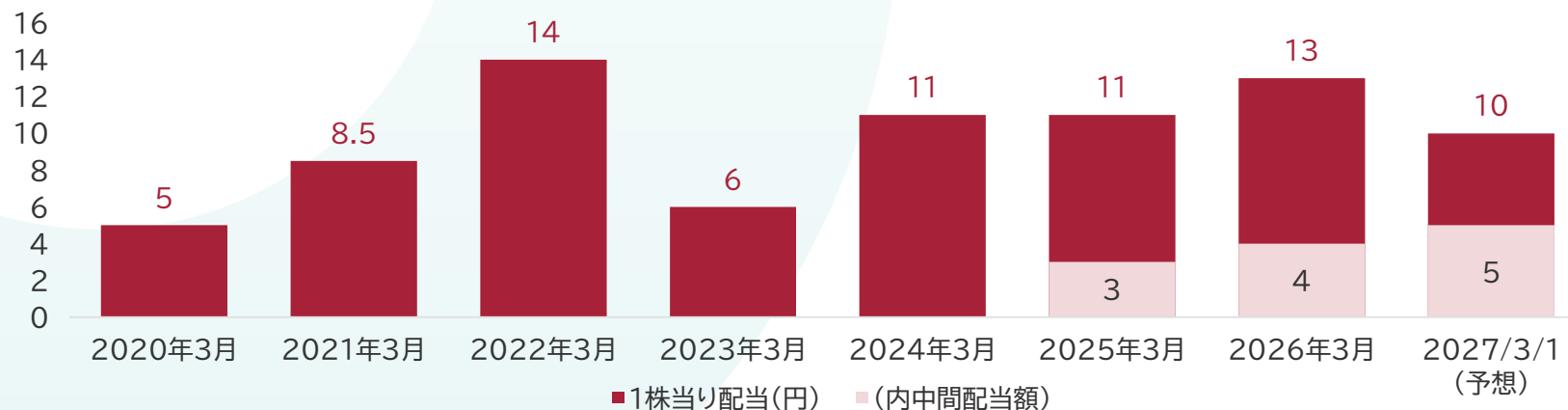
➔ **連結配当性向年間30%程度を目安とします。**

## 配当下限値の設定

1株当たり年間配当金**10円**を下限値とします。(2030年度経営計画期間中)

## 配当金の推移

(単位:円)





# 2026年度 業績予想

# 2026年度業績予想

## 業績概要

- 減収減益の見通し(投資有価証券売却益により当期純利益は横ばい)
  - 関西地区合成セグメントの減少によるセグメント製品の売上高が減少
  - 前年度に寄与した販価改定は過年度分を含んだ一過性要素であることから利益率が減少
- 2030年度中期経営計画通りの目標利益(経常利益15億円)

\*中東情勢の緊迫化によるコスト上昇及び石油化学製品の供給不安の影響は考慮していない。

## 対策

2030年度中期計画の着実な推進による「稼ぐチカラ」の再構築実現

- 利益率の高い土木製品の拡販による製品ポートフォリオの抜本的見直し
- 環境対応・省人化ニーズを捉えた将来に向けた成長戦略の検討・推進
- 販売価格の適正化による収益力向上

(単位:百万円)(百万円未満切捨て)

	2025年度		2026年度				前期比	
	実績		業績予想(5/15公表値)				増減額	増減率
	A	比率	第2四半期 (累計)	通期 B	比率	C=B-A	C/A	
売上高	28,858	100.0%	10,600	25,600	100.0%	△3,258	△11.3%	
営業利益	2,050	7.1%	0	1,450	5.6%	△600	△29.3%	
経常利益	2,104	7.3%	0	1,500	5.8%	△604	△28.7%	
親会社株主に帰属する当期純利益	1,852	6.4%	820	1,850	7.2%	△2	△0.1%	
配当(円)	13.00	-	5.00	10.00	-	△3.00	△23.0%	



# 中期経営計画の概要

(2027年3月期～2031年3月期)

# 中期経営計画の骨子

## 経営理念

私たちは、「人の満足を支える」ことを使命とする「ジオウェア・メーカー」です。

### 「ジオスターが 目指すべき姿」

- インフラ建設への貢献を通じ、将来にわたって存在価値を認められる企業
- 働く人が正々堂々と仕事に取り組み、いきいきと能力を発揮できる企業
- 企業価値を高め、持続的な成長を通じて市場からより高い評価を得る企業

## 中期経営計画2027年3月期～2031年3月期 【CAST THE FUTURE 2030】

### 「目指すべき姿」実現に向けた5つの戦略

#### 戦略1

製品ポートフォリオ  
の抜本的見直し

#### 戦略2

将来に向けた  
成長戦略

#### 戦略3

「稼ぐチカラ」の  
再構築

#### 戦略4

財務戦略

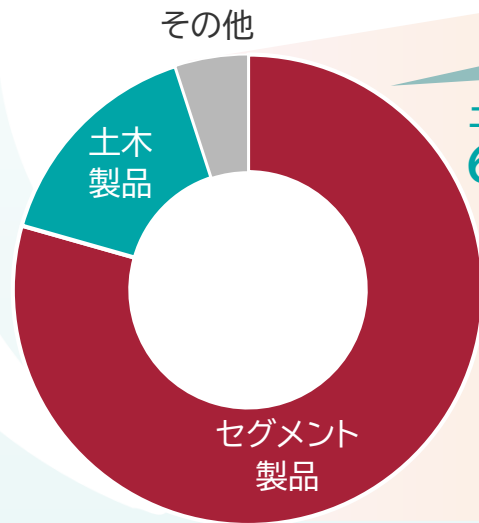
#### 戦略5

サステナビリティ  
経営の推進

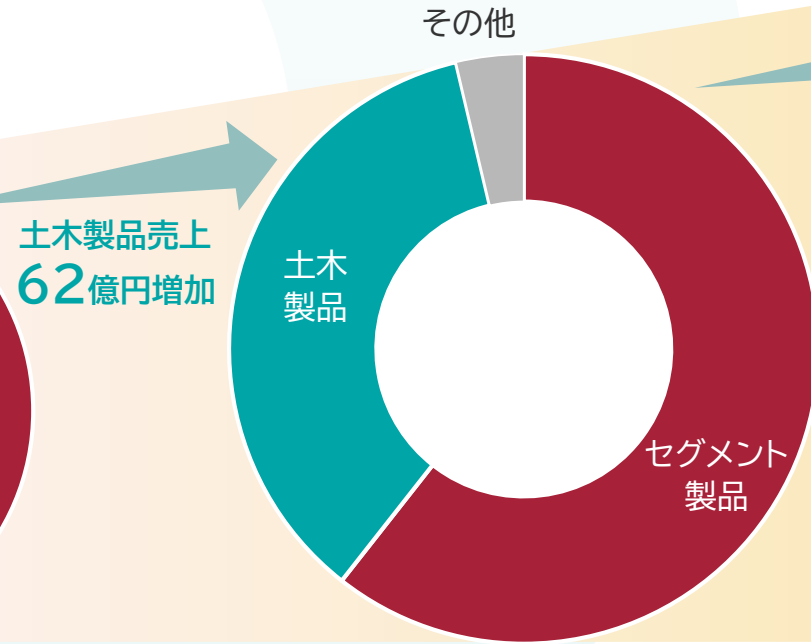
# 戦略1 製品ポートフォリオの抜本的見直し

- セグメント製品の安定収益を基盤に、利益率の高い土木製品を重点育成
- 主力土木製品の拡販に加え、新規分野(防衛・建築等)・プレキャスト拡大など成長領域を強化

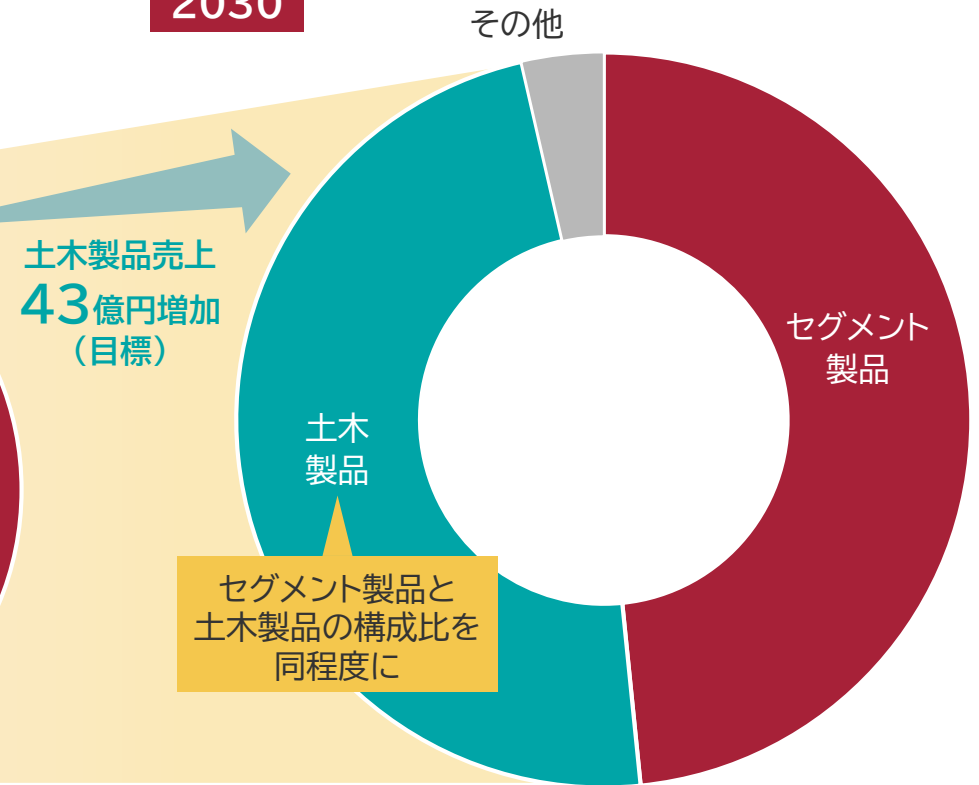
2022



2024



2030



# 戦略2 将来に向けた成長戦略

- 環境対応・省人化ニーズを成長機会と捉え、投資・技術・連携を通じた事業成長を加速

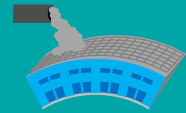
## 新たな事業拡大への挑戦

### M&Aを含む積極的な投資策の実施



- カーボンニュートラル対応製品の採用拡大を見据えた、製品開発・設備投資を強化
- 企業総合力強化に向けたM&Aの検討

### プレキャスト普及拡大に向けた活動の推進

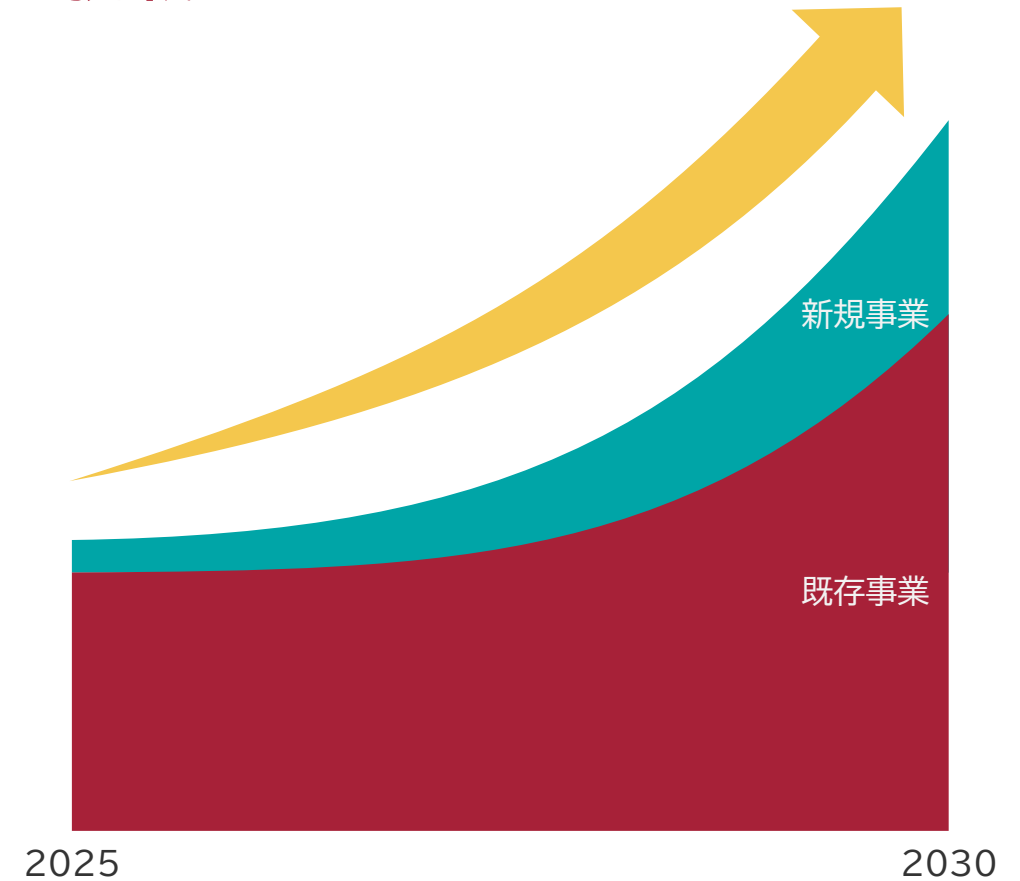


- 人手不足・短工期対応として、施工効率向上に寄与するプレキャスト製品の価値訴求を強化
- 国内プレキャスト利用率は13%※と低水準であり、今後の普及拡大の余地あり  
※日本コンクリート工学会

### 日本製鉄グループとしての戦略的優位性



- 土木製品分野における高い企業競争力を発揮
- 生産技術・利用技術の共有：日本製鉄（鋼材）×当社（コンクリート）の組み合わせで相互補完
- グループ複数企業製品のセット提案等、グループシナジーを最大化

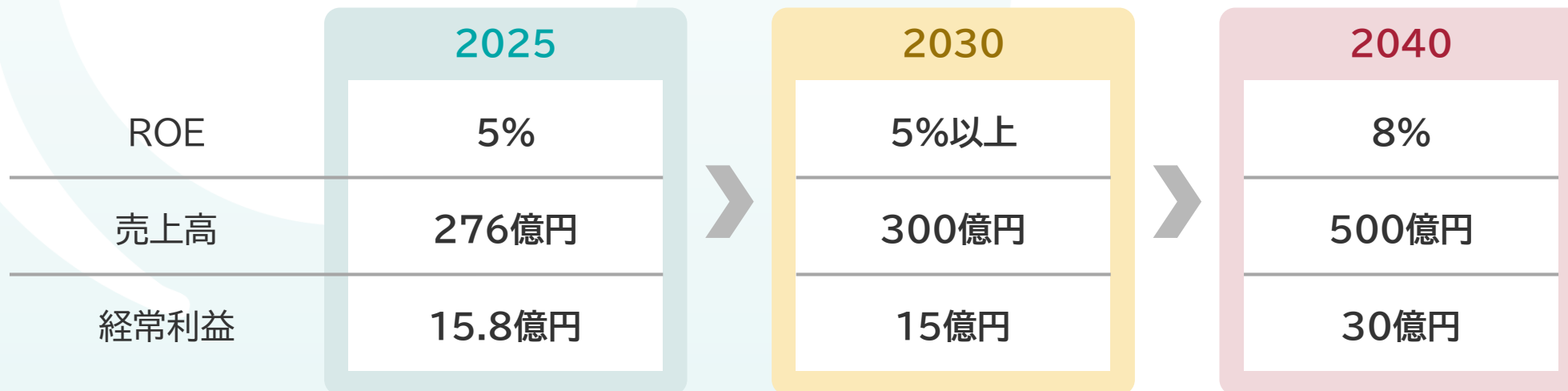


# 戦略3 「稼ぐチカラ」の再構築

- 製品ポートフォリオの抜本的見直し、将来に向けた成長戦略、財務・サステナビリティ戦略を一体的に推進し、中期経営計画「CAST THE FUTURE 2030」の核心である「稼ぐチカラ」の再構築を実現

## 重要経営指標

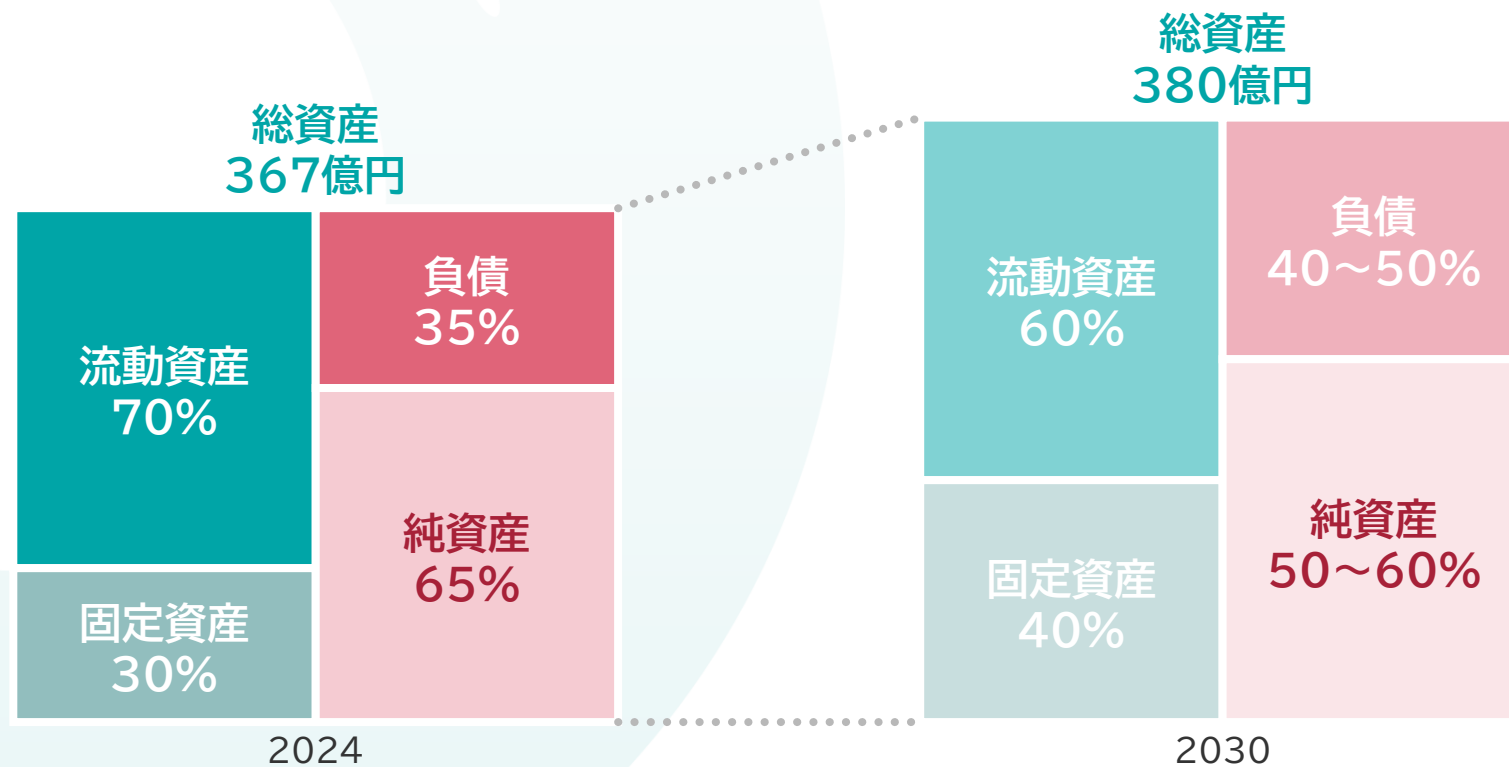
稼ぐチカラの向上(資産の価値創出)	ROE5%以上
安定収益基盤の確立	経常利益率5%以上(安定確保)
社会からの信頼を獲得	売上高300億円以上
人材成長と付加価値の循環	経常利益15億円以上(目標20億円)



## 戦略4 財務戦略：バランスシート目標

- 財務健全性と資本効率の両立による最適なバランスシートの構築
  - ・ 成長戦略への純資産有効活用により自己資本比率を最適化
  - ・ 株式保有方針の見直し(政策保有株式の縮減、自己株式取得への活用)

最適なバランスシートを構築して、ROEを5%以上へ

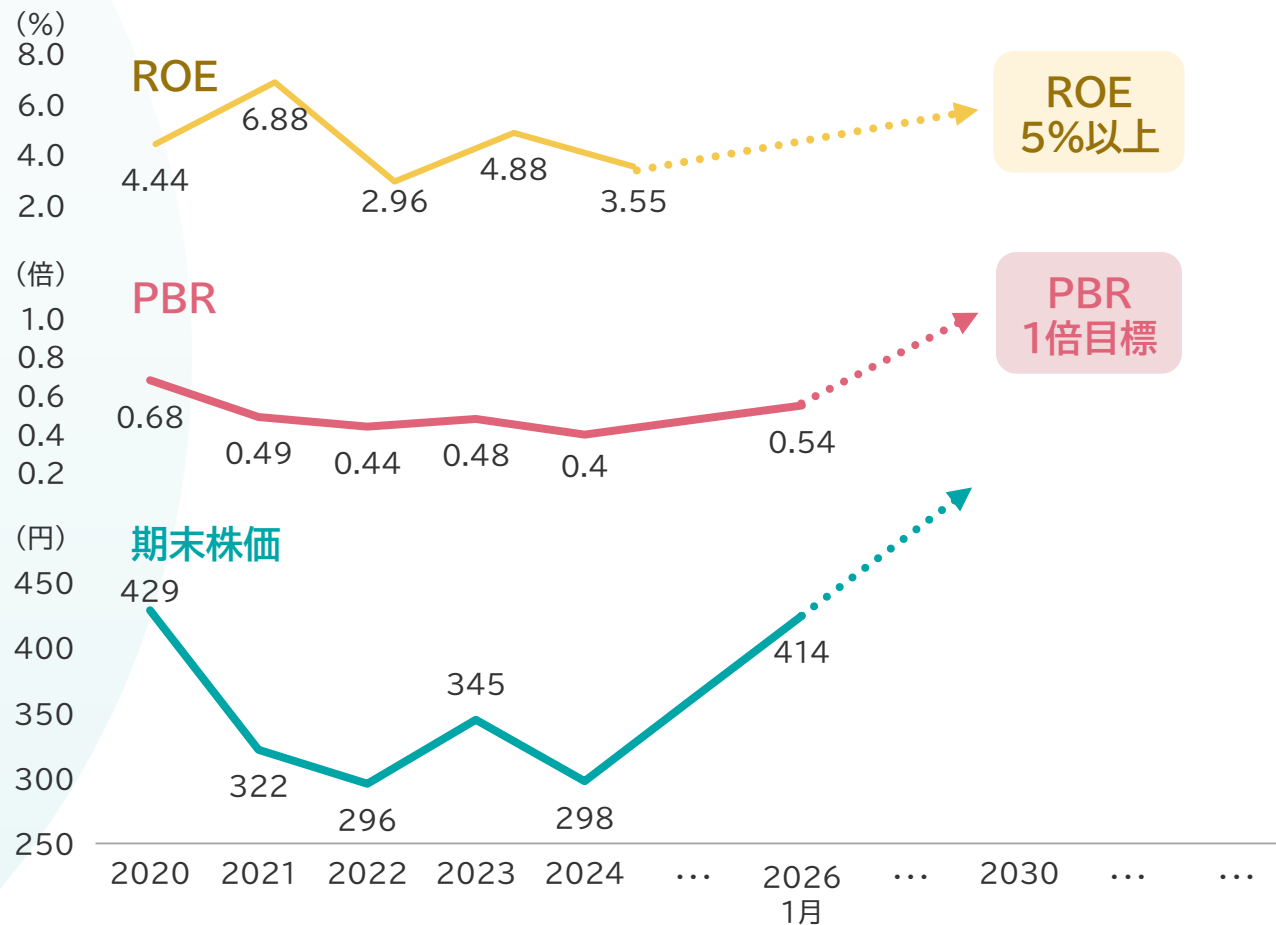


# 戦略4 財務戦略：株価を意識した経営の推進

- PBR(約0.5倍)⇒当社の技術力や社会インフラ領域における安定収益が市場評価に十分反映されていないと認識
- 株主還元強化等を通じた当社株式の魅力向上が必要



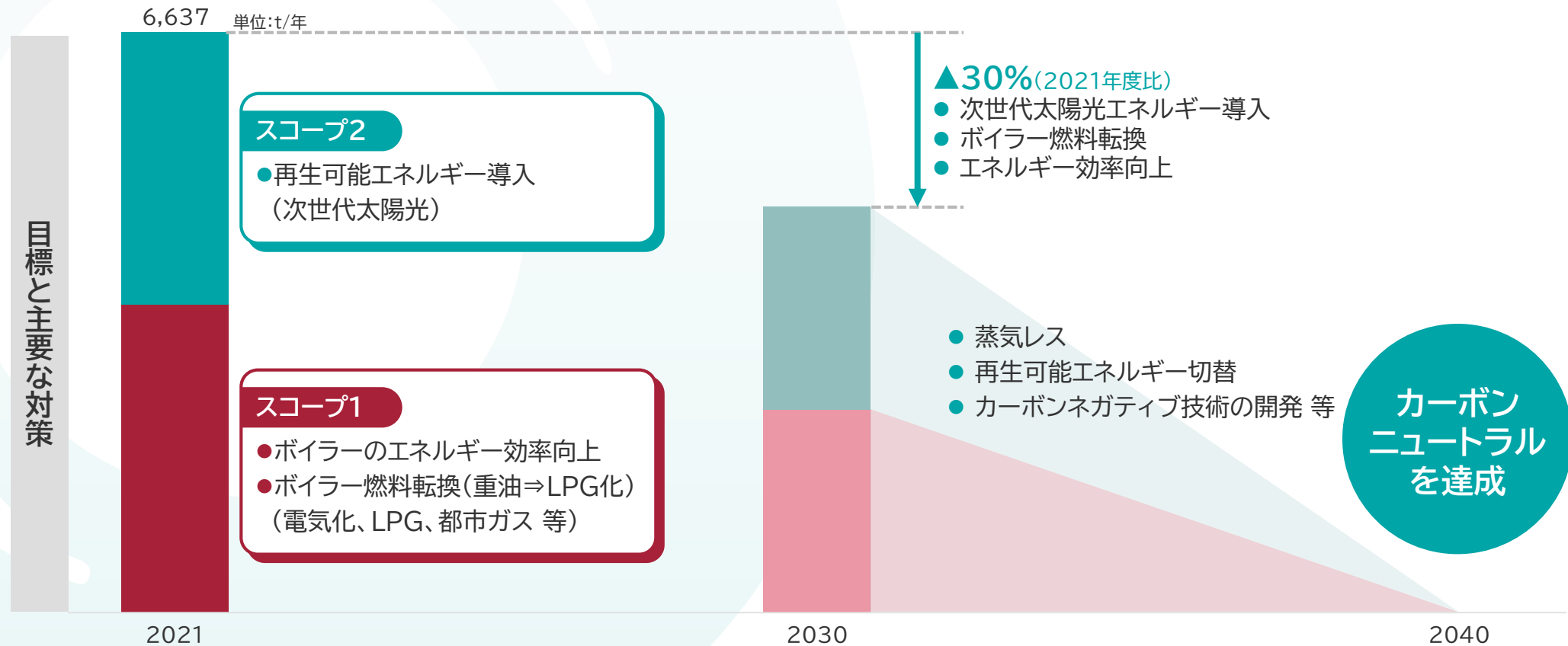
業績上昇による配当額アップで還元強化



# 戦略5 サステナビリティ経営の推進：カーボンニュートラルへの挑戦

- カーボンニュートラル(E)への取り組みを起点に、社会(S)・ガバナンス(G)の実践を通じた経営基盤の強化
- 政府目標(2050年)に先駆けた、2040年(努力目標)温室効果ガス排出量ゼロの実現

## カーボンニュートラル達成へのロードマップ



# 戦略5 サステナビリティ経営の推進

## Social

人的資本の強化と  
能力を発揮するための  
職場づくり

- 処遇・就業環境の改善
- 育成体制の強化
- コミュニケーション活性化によるエンゲージメント向上

## Governance

コーポレートガバナンス強化

- 盤石な内部統制の構築(安全・環境・品質・コンプライアンス)
- 親会社である日本製鉄(株)との緊密な連携のもと、  
自主経営・独立性を維持し適切なガバナンスを確保

DX戦略

- IT化による業務標準化・効率化と人材配置の最適化
- 品質向上と生産性向上に資するDX技術の導入



# 參考資料

# 今後予定される主なプロジェクト(セグメント分野)

## 1 善福寺川上流調節池

概要	大雨による洪水に対応する地下トンネル式調節池		
区間	杉並区成田西3～西荻北4付近を結ぶ地下トンネル		
延長	5.8キロ	完成予定	2035年

## 2 有楽町線延伸

概要	有楽町線の豊洲駅から住吉駅までの地下鉄延伸工事		
延長	4.8キロ	完成予定	2030年代半ば(開業)

## 3 南北線延伸

概要	南北線の白金高輪駅から品川駅までの地下鉄延伸工事		
延長	2.5キロ	完成予定	2030年代半ば(開業)

## 4 多摩川トンネル

概要	国道357号東京湾岸道路 東京都大田区羽田空港と川崎市川崎区浮島を結ぶ 道路用シールドトンネル		
区間	大田区羽田空港～川崎区浮島		
延長	3.4キロ	完成予定	未定

## 5 淀川左岸線延伸部

概要	阪神高速2号豊崎出入口から近畿自動車道と第二京阪道路の門真JCTに接続する高速道路計画		
区間	豊崎IC～門真JCT		
延長	8.7キロ	完成予定	未定

## 6 京奈和自動車道大和北道路

概要	京奈道路の木津IC付近から西名阪自動車道までの区間延長約12.4キロの道路		
区間	奈良県奈良市歌姫町～奈良県大和郡山市横田町		
延長	12.4キロ	完成予定	未定

## 7 なにわ筋線

概要	大阪駅(うめきたエリア)とJR難波駅および南海新今宮駅を結ぶ鉄道路線 (西本町駅を境にJRルートと南海ルートに分かれる)		
延長	約7.2キロ(地下6.5キロ、堀割・盛土0.3キロ、高架0.4キロ)		
完成予定	2031年春開業予定		

# 今後予定される主なプロジェクト(土木分野)

## 1 防衛・空港関連施設

### 概要

- 全国の空港、防衛関連施設への舗装版適用
- 火薬庫整備等へのプレキャスト部材提案

## 2 港湾整備

### 概要

- 東京港・横浜港埠頭におけるコンテナヤードの拡張計画へのプレキャスト部材適用

## 3 道路分野(自動物流道路 等)

### 概要

- 東京～大阪間(500km)で計画される自動物流道路の試験工事への参画(2027年度以降)
- ミッシングリンク解消工事や高速道路リニューアル工事へのプレキャスト部材適用

## 4 リニア関連整備

### 概要

- 車両基地に使用するプレキャスト部材、フード等

## 5 農業排水路

### 概要

- 昭和年代に建設された老朽化の激しい農業排水路の改修工事へのコンクリート矢板適用

# トピックス

## 護岸嵩上げ工法 G-LOCK護岸™ の開発

鋼矢板にプレキャストコンクリートを接続した護岸の嵩上げ工法「G-LOCK護岸™」を開発  
(本工法は、国土交通省港湾局・国土交通省国土技術政策総合研究所が策定する「港湾工事における新技術カタログ」に掲載)

### 背景

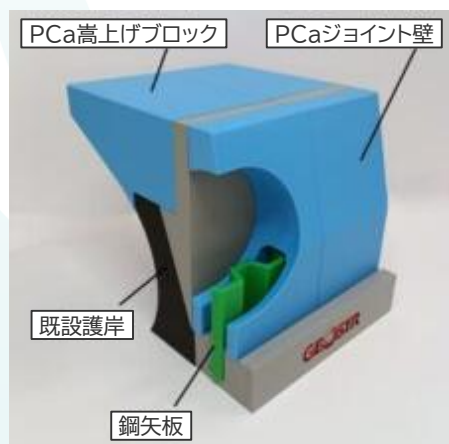
港湾や臨海部の護岸構造物強靱化ニーズの高まり

- 気候変動に伴う海面水位の上昇
- 大規模台風の増加による高潮リスクの増大
- 南海トラフ地震・首都直下地震等大規模地震の発生確率引き上げ

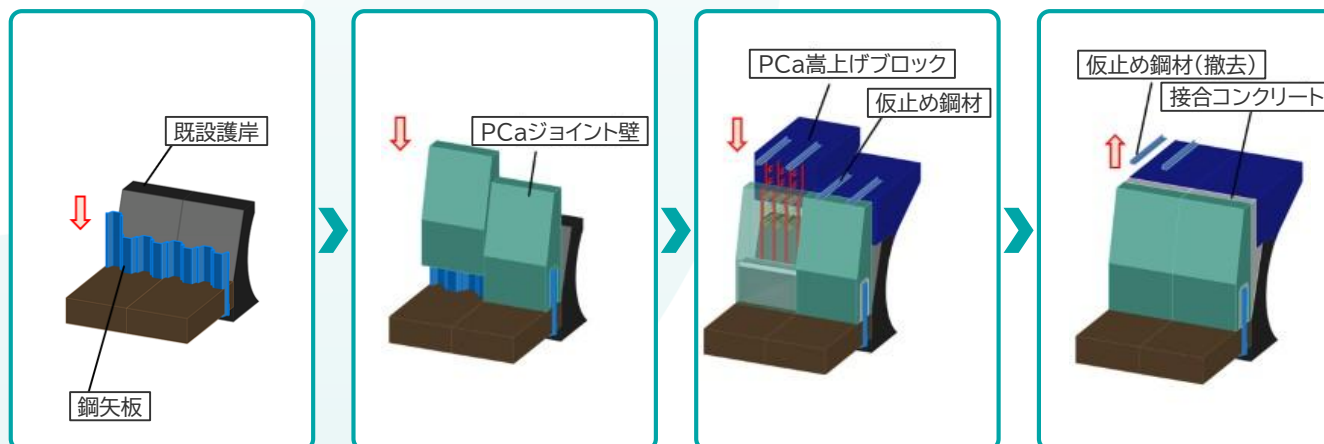
### 特長

- 工場で製作されたプレキャストコンクリート部材と鋼矢板を一体化し、耐震性能を向上
- 波返し形状により壁高を低くすることで景観に配慮
- 高速施工により、従来工法と比べ工期を約40%短縮
- 陸側からのみの施工により、施工時の安全性の確保

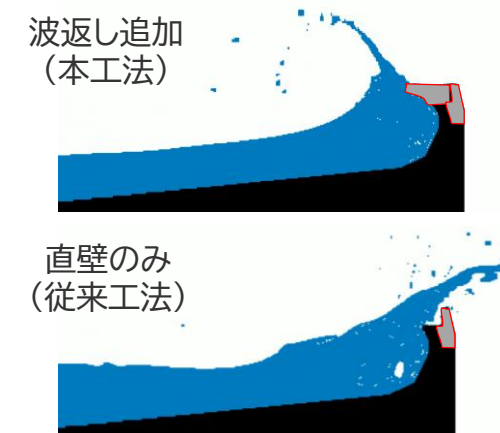
G-LOCK護岸™ の概要



施工手順

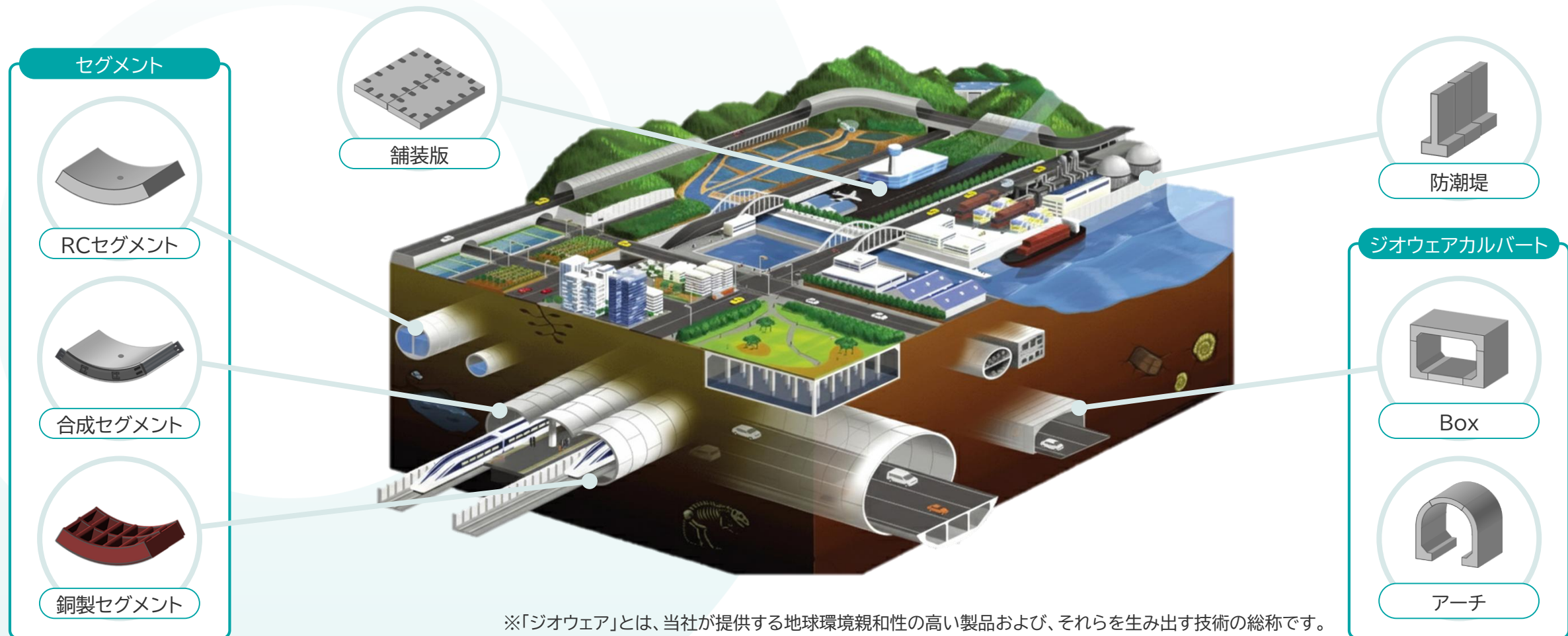


越波解析による嵩上げ護岸の効果



# 主要製品

—— 安心・安全な社会を形づくる、コンクリート土木製品「ジオウェア※」を展開 ——



※「ジオウェア」とは、当社が提供する地球環境親和性の高い製品および、それらを生み出す技術の総称です。



ジオスター株式会社

〒112-0002

東京都文京区小石川1-4-1 住友不動産後楽園ビル

本資料は、金融商品取引法上のディスクロージャー資料ではなく、その情報の正確性、完全性を保証するものではありません。また、本資料に記載された将来の予測等は、資料作成時点で入手された情報に基づくものであり、不確定要素を含んでおります。従いまして、本資料のみに依拠して投資判断されますことはお控え下さいますようお願い致します。本資料利用の結果生じたいかなる損害につきましても、当社は一切責任をおいしません。